



## いつかに備えて今からつながろう

～災害ボランティアセンター研修～



災害ボランティアセンター（以下、災害VC）は、災害が発生した際、被災地に寄せられたボランティアの力を被災者のもとに届けるための調整を行う組織です。

福井市では、有事の際に災害VCを迅速に設置できるよう、日頃から顔見知りになって連携を深めることを目的に、2010年から福井市災害ボランティアセンター連絡会を設置しています。当会を含め市内の7団体が構成員となり、訓練や研修等を行っています。5月20日（土）には、構成員である福井青年会議所（以下、JC）の会員を対象とした内部研修を実施し、28名が参加しました。

JCは、連絡会を設置する以前から、1997年のロシアタンカー重油流出事故や2004年の福井豪雨などで災害VCの運営に関わっています。

今回の研修会で、初めて災害VCの存在を知った会員も多く、初めに市社協職員から災害VCの説明を受けた後、2つの班に分かれ、災害VCのスタッフ役となって演習を行いました。ボランティア受付班では、被災地にやってきたボランティア役を受付し、ニーズ班では、住民役から困りごとを聞き取り、相手に寄り添った運営を心がけていました。

JCの会員で、連絡会副座長の高倉竜馬さんは、「今までボランティアに参加したことはありませんでしたが、運営側を経験したことはなく、想像していたよりも色々な要望やパターンがあり、経験しなければ分からなかったことがたくさんありました。災害はいつどこで起こるか分からないものなので、こういった準備を続けていくことが大事だと改めて実感しました。」と話されていました。

（2023年5月能登地方地震災害義援金を募集しています。詳しくは2ページをご覧ください。）

